

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名

山 口 県

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	柳井市立小田小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	0	6	11
児童数	18	21	21	16	19	18	0	113	

研究の概要

1. 研究主題

一人一人がかがやき、確かな学力を拓く児童の育成
～個に応じた指導と評価～

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

- ・1～6年・算数
児童の習熟度・達成度に差があり、個に応じた指導をすれば確かな学力の定着が図れると考えたため。
- ・3～6年・総合的な学習の時間
自ら課題を持ち自ら追究する学習を進めれば、確かな学力を身に付けると同時に豊かな人間性を培い、「生きる力」を育てることができると考えたため。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 児童の実態を見ると、学習意欲は旺盛な児童が多いが、基礎的基本的な学習内容の定着においては、個人差が大きい。また、思考力・表現力や最後まで問題を解決しようとする忍耐強さもやや弱い傾向にある。 そこで、確かな学力を身に付けるためには、一人一人の能力や特性を十分に見取り、それを生かして、きめ細かな指導を行うことが大切であることから、副主題を「個に応じた指導と評価」とした。</p> <p>研究の見通し そこで研究仮説を次のように立てた。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>子どもたち一人一人が課題をもち、自ら考え自ら追究することができるような学習の展開を工夫し、個に応じたきめ細かな指導と評価を進めていけば、一人一人がかがやき、確かな学力を拓くことができるだろう。</p> </div> <p>研究の内容・方法 算数科ブロックと総合的な学習ブロックと発展的・補充的学習ブロックの3つを作り、それぞれが下記のような研究の視点を立てて主題に迫ることにした。</p> <p>(1) 算数科ブロック 自ら考え自ら追究する課題づくりの工夫 ・児童の発達段階や能力を考慮に入れて、単元を見通した課題をつくらしたり、導入で生活に密着した問題を取り上げたりして、課題づくりを工夫をした。その結果、学習意欲の持続を図るとともに、課題を明確にした授業を行うことができた。</p>
--------	---

個に応じたきめ細かな指導を行うための指導体制・指導形態のあり方

ア ITで指導を行い、学習意欲・学習効率があがった実践

- ・ 単元導入時では、IT 指導によりその単元の学習に興味を持たせたり単元全体の課題を学級全体でつくることができた。
- ・ 作業を伴う場合、全体で指導した方が競争原理が働き、作業能率があがった。
- ・ 多様な思考を要する場合、学級全員でいろいろな考え方を出しながら比較検討する中で、よりよい方法や公式を導き出したり、自分の考えを深めたりすることができた。

イ 少人数指導（均質・習熟度別・課題別など）を行い、観点別学習状況の評定があがった実践

- ・ それまでの学年の学習内容の理解や習熟の程度に差がある単元（数と計算等）では、少人数指導により、個に応じた十分な指導ができ、基礎的・基本的内容の定着の徹底を図ることができた。
- ・ 単元の終わりで、その単元の理解や習熟の程度を確かめながらその単元の補充的・発展的な学習につなげることができた。

確かな学力の定着につながる評価の工夫

- ・ 児童の学習の達成度を明らかにするために、評価規準・評価基準を作成した。授業を行う前に、学習状況のどこにつまずくか予想し、そのつまずきを克服するためにどのような支援を行うか準備することによって、個に応じた適切な助言や指導を行うことができた。

(2) 総合的な学習ブロック

様々な直接体験や感動体験を通しての課題づくり

- ・ 本校の隣の知的障害者入所更生施設柳井ひまわり園との交流を通して子どもたち自身が課題を発見することができた。交流活動として、笑顔まんかい交流会や車いす体験会などを行った。

子どもたちの学習ニーズにきめ細かに対応するための指導の工夫

- ・ 課題解決のために有効な方法が見い出せなかったり、追究の過程で次の活動が見えにくくなったりしてつまずいたとき、「明日のためのカード」で学習を振り返るようにし、次に進むべき方向を見出すようにした。その結果、「盲導犬」「街のバリアフリー」「点字・手話」「障害について考えよう」の4グループに分かれて学習を進めることができた。

子どもたちの思いや願いを大切にしたい評価

- ・ 子どもたちがふれあい体験を通して、何に心を動かされていったか何に気づいたかを「小田きら絵日記」に書き綴るようにした。これを累積することによって子どもたちは、自分自身のあゆみに気づくと同時に教師は、どんな心や力が伸びていったかを見取ることができた。

(3) 発展的・補充的学習ブロック

自ら取り組む繰り返し学習の工夫

ア 朝の学習のプリントとしてホップ（1・2年）・ステップ（3・4年）

- ・ ジャンプ（5・6年）の各20級から1級のプリント作成し、月曜
- ・ 水曜・木曜の朝の15分間、計算の進級プリントを行った。

イ 計算フェスティバルを学期に1回計画し、実践した。

個に応じた指導と評価の工夫

ア 4年以上の発展的・補充的な学習の時間として、フロンティアタイムを水曜の5校時に行った。

イ コンピューターソフト「ひとりでスタディ」「みんなでスタディ」に取り組んだ。

③ 自ら学ぶ力を育てるための学校と家庭との連携

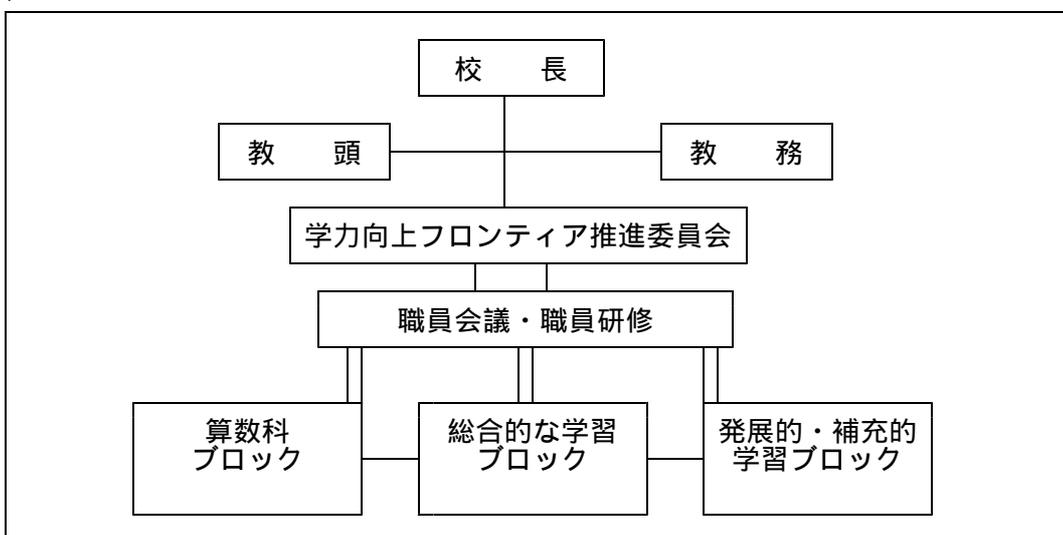
ア 児童や保護者を対象としたアンケート調査を行った。

イ 少人数だより「はまかせ」で算数の学習の様子や家庭学習へのお願いなどを掲載した。

ウ 冬休み学習会を行い、自ら学ぼうとする態度を養った。

平成16年度	<p>テーマ 今年度と同じ研究主題をもとに研究を深めていきたい。</p> <p>研究の見通し ・15年度に培ってきた基礎的・基本的な力を生かしながら、思考力・表現力の育成や課題解決的な学習に視点をあてて研究を進めていきたい。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1) 算数科ブロック ・昨年度の実践を広げ、指導形態・指導体制を工夫し、確かな学力の定着を図る。 ・基礎・基本を生かし、思考面を重視した単元や発展的問題で、より個に応じたきめ細かな指導を行う。</p> <p>(2) 総合的な学習ブロック ・自ら課題をもち自ら学び自ら考える総合的な学習の中で、個に応じたきめ細かな指導を行い、評価規準をもとに一人一人の力を伸ばしていきたい。 ・3年以上の各学年で教科・領域との関連を生かしながら、総合的な学習を進め、生きる力を培う。</p> <p>(3) 発展的・補充的学習ブロック ・繰り返し学習を工夫しながら、発展的な問題にも取り入れた実践をする。 ・朝の学習は学年でより細分化した問題をつくり、つまづきをよりの確につかみ指導する。 ・長期休業中にも、学習会を設ける。 ・家庭学習のあり方について考える。</p>
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

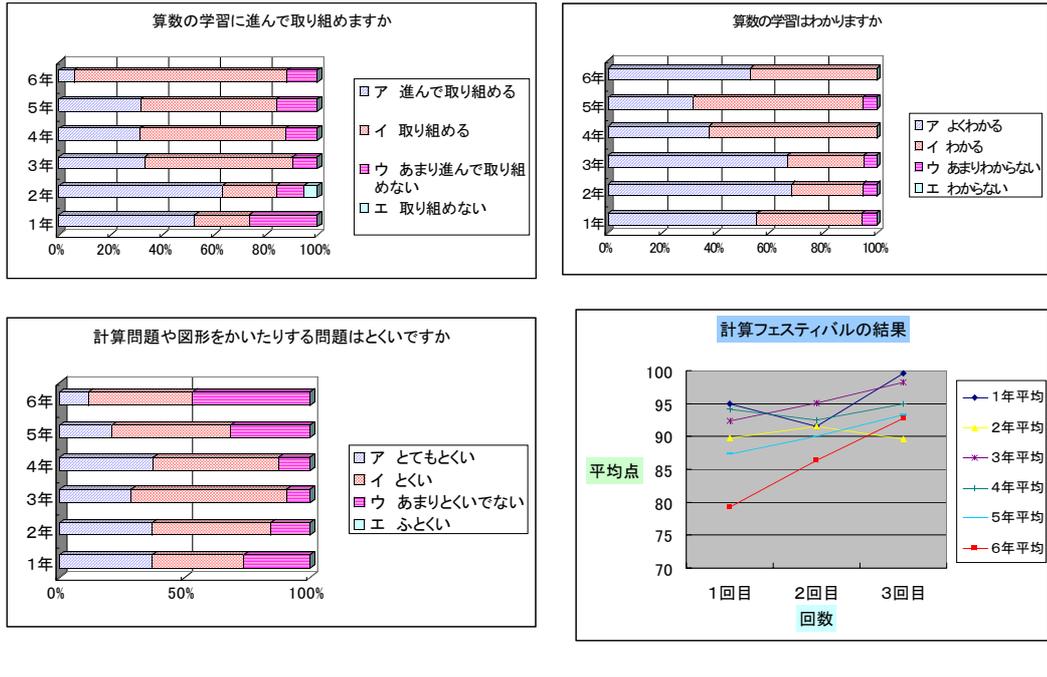
教師が児童の発達段階や指導内容の特性を十分に考慮に入れて、単元全体を見通した課題づくりを工夫することにより、自ら考え自ら追究しようとする学習意欲や態度を培うことができた。また、より生活に密着した課題やふれあい体験などを取り入れることによって、児童が自分自身の問題としてとらえ、より主体的に学習を進め、学ぶ喜びを味わわせることができた。

朝の短い時間やゆとりの時間に、繰り返し学習を全校体制で取り組むことによって、補充的学習や発展的な学習を進めることができた。これによつて、基礎基本の確実な定着を図ることができ、児童にとっては、できる喜びが自分への自信につながったと考えられる。

確かな学力の定着のためには、習熟度・達成度のみならず、学習意欲・学習ペース・興味関心など、児童の実態にきめ細かに対応し、その場で評価したことをよりはやく指導に生かすことが大切だと考えられる。

算数では、全校体制で授業にあたることにより、一人一人のつまずきを的確にはやく発見することができ、わかる喜びを感じている児童がふえたと考えられる。

総合的な学習の時間においては、直接体験や交流学习を通して、自ら課題をもち、それを追究しようとする姿勢が見られるようになった。特に、6年生においては、ひまわり園との交流を通して、障害者に対する正しい理解をし、思いやりの心を育み、やさしさを共有する喜びを味わうことができつつある。



2. 今後の課題

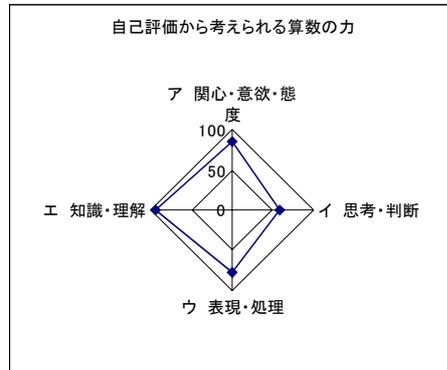
算数を中心に学ぶ喜び・わかる喜び・できる喜びを感じ、学習が次第に主体的になっているが、それをより多くの学年や単元に広げ、自ら学び自ら考えようとする児童の育成を図りたい。

繰り返し学習によって、どの学年も表現・処理の能力は伸びてきた。しかし、教師側が根気よく見取っていかなければ、子どもの伸びは止まってしまうので、継続的に指導を行う。

アンケート調査からもわかるように、知識・理解面は伸びてきたが、思考を要する問題は、児童は難しいと感じている。思考場面で、個に応じたよりきめ細かな指導を取り入れた授業を多く仕組むことによって、難しい問題でも自力解決できる喜びを感じさせたいと考えている。

また、指導体制・指導形態を工夫することによって、発展的な学習にも取り組む場面をふやしていきたい。

総合的な学習の時間においては、6年生の実践を他学年にも広げ、各学年が教科・領域との関連を図りながら実践を進め、自ら考え自ら追究する力を育てていかなければならないと考えている。



学力等把握のための学校としての取組

- NRT
 ・調査の目的：算数の領域別の能力を診断し、その学年の指導に生かす。
 ・実施内容：算数の前学年の学習内容
 ・時期等：平成15年5月
- CRT
 ・調査の目的：算数の観点別の能力を把握し、来年度への指導に生かす。
 ・実施内容：算数の各学年の学習内容
 ・時期・・・平成16年3月上旬

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 平成15年7月10日(木)
 ・授業研究
 6年 総合的な学習の時間「心のバリアフリー」(授業者 河本 淳也)
 指導者 県教育庁指導課 指導主事 兼重 光雄 先生
- 平成15年10月8日(水)
 ・学校訪問指定授業
 4年 算数科「式と計算」(授業者 T1 広中裕子 T2 叶 宏子)
- ・学校訪問一般授業
 1年 算数科「20までのかず」
 (授業者 T1 岡本直美 T2 教頭 淵上真治 T3 学習支援ボランティア)
- 平成15年11月12日(水)
 ・授業研究
 3年 算数科「長方形と正方形」(授業者 T1 河野智浩 T2 叶 宏子)
 指導者 祝島中学校 校長 中原 直巳 先生
- 平成16年1月14日(水)
 ・授業研究
 2年 算数科「かけ算(3)」(授業者 T1 國宗 司 T2 叶 宏子)
 指導者 山口県教育研修所 長期研修教員 麻郷小学校 教諭 浅海 範明 先生
- 平成16年1月26日(月)
 ・柳井管内学力向上フロンティア事業地区協議会
 研究発表(本年度の取組と成果及び課題)
- 平成16年1月30日(金)
 ・学校評議員へ学校の取組を発表する。
 本年度の研究成果をまとめた研究紀要を作成し、管内全学校へ配布(3月)
 ホームページについては、現在作成し準備中である。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 ~12学級
 13~18学級 19~24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無